す智かにはな何修此と人か分のを驚語格つ此 人をはは萬けとら厦道間らので見くををたの と研しか物れ思ずに徳と矢心あよで云持も世人 ないいいのばふ仕一の禽張かる猩あふっののは るて次る霊出か事人有獣仲らし々ら鳥ては中 様完第人長来必一の無と間考かをう獣居なは 心全で間でなずつ人にのをえし見いがるい廣 掛なはがあいや出間よ差離て彼よなあも故い けるな多るのか来ある異る思等鸚實るのにと な人い々とでのなりこ点、想人鵡際とで人は けとかあ云あ鸚いてとはこを語猩あしあ聞いあ れな故るへる鵡と讀い如と發を々るたるはひ ばっにのる鳥猩し書思何が表真はのなし萬な 出て我でだ獣々たははと出す似よでらか物が 来国等あらにになもれ云来るすくあばしのら な家はるう劣恥らとるふなのる人る諸今霊人 いの徳實かっずばよ今にいでの語か君こ長間 為をに世てる諸りか只然はみをのは、たに に修なのも所君行り知らなで語鸚必にるま 盡めげ中人がはもに識ばい自る鵡ず人資さ

村木宏太郎